



幼稚園と小学校における「善悪の判断」と「勇気」
を主題とした道徳教育実践：
子どもに積極的な自己像の形成を促す幼小一貫教育
の実現に向けて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学教育文化学部 公開日: 2013-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 助川, 晃洋, 藤森, 智子, 平野, 崇, 後藤, 和之, Fujimori, Tomoko, Hirano, Takashi, Goto, Kazuyuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/4613

幼稚園と小学校における
「善悪の判断」と「勇気」を主題とした道徳教育実践
—子どもに積極的な自己像の形成を促す幼小一貫教育の実現に向けて—

助川 晃洋^{*1}・藤森 智子^{*2}・平野 崇^{*3}・後藤 和之^{*3}

**Moral Education Practices of “Judgment of Right and Wrong” and “Courage”
in Kindergarten and Elementary School:
Toward the Development of Children’s Proactive Attitudes**

**Akihiro SUKEGAWA, Tomoko FUJIMORI, Takashi HIRANO
and Kazuyuki GOTO**

I 研究の背景と課題

幼稚園と小学校（ただし本研究では、低学年、すなわち第1・2学年に限る）の教育をどのようにしてつなげるかについては、2010（平成22）年11月11日に、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議から出された「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」において集中的に議論されている。それ以前に、例えば2007（平成19）年6月27日付で一部改正された学校教育法は、「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」（第22条）であると述べているが、これは、我が国の学校体系に照らして現実的に考えれば、まず何より幼小間を一貫したものとしてとらえていこうとする枠組みを表明したものとみなすことができる。

こうした法律上の理念は、今次の教育課程改善の基本的な方向となっている。2008（平成20）年1月17日に、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から出された「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（以下、中教審答申と表記する）は、幼稚園教育について、「小学校教育との円滑な接続を図り、幼稚園における教育の成果が小学校につながっていくことが大切である」⁽¹⁾と述べている。それを受けて幼稚園教育要領（2008年3月28日告示）は、「指導計画の作成に当たっての留意事項」（のうちの「一般的な留意事項」）の一つとして、「幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにすること」を挙げている⁽²⁾。また幼稚園教育要領は小学校学習指導要領（同年同日告示）を、小学校学習指導要領は幼稚園教育要領を同一冊子内に収めている。これらは、幼小一貫教育への政策的な関心の高さを物語っている。

^{*1} 宮崎大学教育文化学部

^{*2} 宮崎大学教育文化学部附属幼稚園

^{*3} 宮崎大学教育文化学部附属小学校

そして幼小一貫教育の実践は、突出した特別区域だけに限らず、いまや全国各地で行われている。しかしそれに関する様々な報告からは、多様性ではなく、一つの共通傾向を明瞭に看取することができる。すなわち中教審答申が、「幼児と児童が交流するなど」、幼稚園と「小学校との連携や交流を図る」ことを推奨し⁽³⁾、幼稚園教育要領が、「幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり」して、幼小間の「連携を図るよう」に指示していることも手伝って⁽⁴⁾、園児・児童の交流活動の事例が圧倒的に多い。子ども同士の交流が計画され、それが連携の成果として報告され、反対にそれができないことが問題視される。そこでは交流活動が、自己目的化してしまっていると言えよう。

それに対して幼小間における教育内容上の一貫性に着目した実践は、生活科を中心としたスタートカリキュラム（合科的な指導）の編成事例をはじめとして、確かにいくつか散見され得るものの、それでも十分に蓄積されているとは言い難い。幼稚園と小学校の教育内容のうちで、相互に共通性が認められる、或いは連続性・系統性が見込まれるものは何か。それについて、幼稚園と小学校のそれぞれにおいては、どのような実践が計画されて、行われているか。こうした問いに向き合った教育学研究の成果も、極めて手薄である。

本研究は、以上のような実践・研究状況の不備を背景として企画され、遂行されるに至ったものである。具体的には、幼稚園と小学校における「善悪の判断」と「勇気」を主題とした道徳教育実践の事例として、宮崎大学教育文化学部附属幼稚園（以下、附属幼稚園と表記する）と宮崎大学教育文化学部附属小学校（以下、附属小学校と表記する）での取り組みについて報告することが、本研究の課題である。

なお中教審答申は、次のように述べている⁽⁵⁾。

小学校における道徳の時間においては、自己の生き方及びその基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底する観点から、幼児教育との接続に配慮し、例えば、基本的な生活習慣や善悪の判断、きまりを守るなど、日常生活や学習の基盤となる道徳性の指導や感性に働きかける指導を重視する。

これに従う限りにおいて、本研究が、「善悪の判断」に着目するのは、極めて妥当であろう。そして小学校の道徳では、「善悪の判断、勇気」、或いは「善悪の判断・勇気」という形でセットになって、一つの徳目として取り扱われるケースが一般的であり、したがって中教審答申は、「善悪の判断」と「勇気」を主題とした幼小一貫教育実践の推進を要請していると解釈することができる。ただし「勇気」の視点は、幼稚園では、小学校ほど前面には出ていない。

II 附属幼稚園の取り組み

ここでは、領域「人間関係」のねらいと内容に関する幼稚園教育要領と同解説の記載を確認した上で（ただし後者は、一つの内容項目に限る）、それに関する附属幼稚園の2012（平成24）年度版年間指導計画上の規定を提示し、さらに同年11月（日は後述する）に、年中の子どもを対象として、藤森智子教諭が行った一連の実践について報告する。

1 幼稚園教育要領の記載

幼稚園教育要領は、「人間関係」のねらいと内容を次のように定めている⁽⁶⁾。

1 ねらい

- (1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。
- (2) 身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- (3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。

2 内容

- (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。
- (2) 自分で考え、自分で行動する。
- (3) 自分でできることは自分です。
- (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。
- (5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。
- (6) 自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。
- (7) 友達のよさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。
- (8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。
- (9) よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- (10) 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。
- (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- (12) 共同の遊具や用具を大切に、みんなで使う。
- (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。

このうち「善悪の判断」と「勇気」にかかわる内容項目は、(9)である。幼稚園教育要領解説は、次のように述べている⁽⁷⁾。

幼児は、他者とかかわる中で、自他の行動に対する様々な反応を得て、よい行動や悪い行動があることに気付き、自分なりの善悪の基準を作っていく。特に信頼し、尊敬している大人がどう反応するかは重要であり、幼児は大人の諾否に基づいて善悪の枠を作り、また、それを大人の言動によって確認しようとする。したがって、教師は幼児が何をしなければならなかったのか、その行動の何が悪かったのかを考えることができるような働き掛けをすることが必要である。そして、人としてしてはいけないことは「悪い行為である」ということを明確に示す必要がある。

ただし、幼児であっても、友達とのやり取りの中で、自分の行動の結果、友達が泣いたり、怒ったり、喜んだりするのを見て、自分が何をやったのか、それがよいことなのか悪いことなのか自分なりに考えることはできる。教師は、ただ善悪を教え込むのではなく、幼児が自分なりに考えるように援助することが重要である。そして、幼児が自分で気付かないことに気付くようにすることが大切である。例えば、物を壊してしまったというような物理的な結果は分かっても、相手の心を傷つけたという心理的・内的側面には気付かない幼児に相手の意図や気持ち、そして、自分の行動が相手にもたらした心理的な結果に気付くように働き掛けることが必要である。また、自分の視点からしか物事をとらえられない幼児には、自分の行動がどのような結果をもたらしたのかを自分の視点とは異なった視点、特に、他者の立場から考えるように働き掛けることが重要である。

こうした教師からの働き掛けを受け入れられるかどうかは、幼児との関係の有り様が深

くかかわる。信頼関係がなければ、幼児は教師の言うことに従って、よい行動を行ったり悪い行動を抑えたりする気持ちになれない。また、自分で考えようとする気持ちを持ち、自分の考え方をより適切なものにしていこうとするためにも、幼児が基本的に安定感を持ち、教師や他の幼児から受け入れられている安心感をもっている必要がある。

2 附属幼稚園の年間指導計画

附属幼稚園では、在籍する子どもの年齢・発達段階、指導の時期や系統性等を考慮して、領域ごとに年間指導計画を立てている。そこに示された「人間関係」のねらいと内容は、次の通りである。なお1～5期は、それぞれ4・5月、6・7・8・9月、10・11月、12・1月、2・3月に対応しており、また各期のテーマは、「みんな友達」、「元気に遊ぼう」、「秋はいいな」、「楽しい遊び見つけたよ」、「春が来るよ」である。

(1) 3歳児（年少）

1期	ねらい	◎ 先生や友達の存在を知り、親しみをもとうとする。
	内容	○ 自分の気持ちを言葉や態度で表現しようとし、受け入れてもらい、安心する。 ○ 先生と一緒に過ごしながら、親しみをもとうとする。 ○ 先生や5歳児に身の回りのことを手伝ってもらおうことや、一緒に遊んでもらうことで、親しみを感じ始める。
2期	ねらい	◎ 自分の気持ちを色々な方法で表現しながら、先生や友達に自分からかかわろうとする。
	内容	○ 自分の気持ちを先生や友達に言葉や態度で表現しようとする。 ○ 自分とは違う友達の思いに触れる。 ○ 好きな遊びをしながら、クラスの中で気の合いそうな友達に気づく。 ○ 他のクラスの先生や友達に気づく。
3期	ねらい	◎ 気の合う友達を自分から見つけようとする。
	内容	○ 自分の気持ちを先生や友達に話そうとしたり、態度で表現しようとする。 ○ 友達には、友達の思いがあることに気づく。 ○ 友達に誘われたり、誘ったりしながら、仲よくなろうとする。 ○ 他のクラスの先生や友達にかかわろうとする。
4期	ねらい	◎ 自分の思いを言葉や仕草などで表現しながら、気の合う友達と楽しく遊ぶ。
	内容	○ 自分の気持ちを先生や友達に話そうとする。 ○ 友達の話を聞こうとする。 ○ 先生や友達に自分からかかわろうとする。
5期	ねらい	◎ 気の合う友達と、自分の思いを出し合いながら、楽しく遊ぶ。
	内容	○ 友達に自分の思っていることを話すようになる。 ○ 友達の話を聞き、友達の思っていることに気づこうとする。 ○ 自分から友達に声をかけて仲間に入ろうとする。

(2) 4歳児(年中)

1期	ねらい	◎ 色々な先生や友達に親しもうとする
	内容	○ 先生や友達とかかわりながら、親しみをもとうとする。
2期	ねらい	◎ 先生や友達に慣れ、話したり、遊んだりする。
	内容	○ 先生や友達のことを知り、親しむ。 ○ 先生や友達に自分の気持ちを表現しようとする。 ○ 自分とは違う友達の思いがあることに気づく。
3期	ねらい	◎ 色々な友達と親しくなろうとする。
	内容	○ 同じクラスの友達とかかわったり、他のクラスの友達と親しくなったりする。 ○ 友達の中で思ったことを自分なりに表現しようとする。 ○ 友達の気持ちを知らうとする。
4期	ねらい	◎ 気の合う友達と考えを出し合いながら、遊ぼうとする。
	内容	○ 色々な年齢の友達に親しみをもつ。 ○ 気の合う友達を見つけ、親しくなる。 ○ 思ったことを言葉で表現しようとする。 ○ 友達の気持ちや考えを知るようになる。
5期	ねらい	◎ 友達のよさを受け入れながら、親しくなる。
	内容	○ 色々な友達のよさに気づいて、一緒に遊ぼうとする。 ○ 思ったことや考えたことを伝えようとする。 ○ 友達の考えも受け入れようとする。

(3) 5歳児(年長)

1期	ねらい	◎ 先生や友達に親しみをもつ。
	内容	○ 好きな遊びをしながら、クラスの先生や友達に慣れ、親しみをもつ。 ○ 同年齢の友達と遊んだり、年下の友達と遊んだりする。
2期	ねらい	◎ 先生や友達に考えたことを話したり、相手の気持ちに気づいたりする。
	内容	○ 好きな遊びをしながら、同年齢や年下の友達と親しもうとする。 ○ 自分の要求や気持ちを先生や友達に伝える。 ○ 友達にもそれぞれの気持ちや考えがあることに気づく。
3期	ねらい	◎ 友達とかかわりながら、思いを伝え合い、互いの気持ちをわかり合おうとする。
	内容	○ 色々な友達と気持ちを伝え合いながら、好きな遊びを楽しむ。 ○ 自分の考えを表現したり、友達の意見にも耳を傾けようとしたりする。
4期	ねらい	◎ 友達のよさに気づき、親しくなる。
	内容	○ 自分の考えを表現したり、友達の考えを受け入れたりしながら、互いの気持ちを知らうとする。
5期	ねらい	◎ 色々な友達のよさを知り、一緒に過ごす楽しさを味わう。
	内容	○ 友達の気持ちや考えを受け入れて、話し合いながら生活する。

3 発達の段階を踏まえた指導の実際

(1) 主題とその設定理由

友達との遊びを通して、よいことや悪いことに気づく。

幼児期の子どもにかかわる教師や保護者の大切な役割の一つとして、正しいことを教え、間違いを正すことがある。それは、子どもにとって必要なことである。しかし、正しいのか、正しくないのかを常に大人の価値観で判断すると、子どもは、大人からどう見られるかという視点から行動するようになり、自分で善悪を判断して行動する力は育たない。

園生活は、教師や友達との密接なかかわりで成り立っている。子どもは、人とかかわりの中で生じる衝突や葛藤を通して、相手の気持ちを知り、自分の気持ちに折り合いをつける経験を重ね、人とかかわり方や集団で行動するときのルールを身につけている。そのため、発達段階を踏まえた指導はもちろんのこと、状況に応じて、子どもの柔軟な心に判断を委ね、自分で考える体験を積み重ねられるような援助が必要である。

そこで、上述した「人間関係」の内容(9)を視点として、友達と楽しく遊ぶために、戦いごっこのルールを考える実践を振り返りながら、必要な援助について事例的に考察していくことにする。なお指導の経過に即して、教師と子どもが一对一で考える場面(場面1、13日)と、クラス全体で戦いごっこのルールを共有していく場面(場面2、20日)に分けて報告・検証する。

(2) 「友達と楽しく遊ぶために、戦いごっこのルールを考える」の実践

①場面1 - 自分の気持ちを受けとめてもらえる安心感の中で -

T男が、新聞紙で作った剣を振り回したり、ブロックを叩いたりして遊んでいた。E男が、「俺が相手になるよ。」と言う。近くにいたK子が、E男に、新聞紙で作った剣を渡す。T男が剣を激しく振り回したところ、E男の右目に当たり、E男が激しく泣く。

教師が、E男の泣き声に気づき、駆けつけたときには、T男は、すでに他児から非難を受け、硬い表情で周囲をにらみついていた。教師がたずねても、目を合わせようとしない。教師は、E男の怪我について確認し、養護教諭に処置を依頼した後、T男とともに職員室に移動し、状況をたずねた。保育室では、周りの子どもの目を気にして、何も言えなかったE男であったが、教師と二人になると表情が和らぎ、事の経緯をぼつりぼつりと話し始めた。教師は、善悪の判断を下すような発言は控え、ひたすら受容することで、T男が気持ちを整理しながら話すことができるように配慮した。思いを聞いてもらうことで、T男も落ち着き、「じゃあ、どうすればよかったかな。」という教師の問いかけに対して、自分なりの答えを考え、「剣は振ると危ない。」「相手と目をしっかり合わせて、剣と剣が当たるように動かす。」の二点を導き出す。教師に思いを受けとめてもらったことで安心し、T男自ら「謝りたい。」と言って、E男の顔をしっかりと見て謝罪することができた。T男は、自宅に帰って母親に報告し、翌日から剣を振り回す姿は見られなくなった。

幼児期の子どもは、遊びたい気持ちが優先してしまうため、危険を予測したり、自分の行為が相手にどのような影響をもたらすかを考えて行動したりすることが難しい。したがって園生活の中では、上述した場面のように、安全にかかわる危険な行為に出会うことがある。その

際、教師の真剣な態度で、やってよいことや悪いことを明確に伝えることで、その行為の危険性を知らせる必要がある。しかし、本当の意味でやってはいけないことを理解し、自らその判断ができるようになるためには、なぜやってはいけないのかについて、子どもが自分なりに考える必要がある。

そのためには、教師が叱って価値観を教えるのではなく、子どもが気づき、自分で判断する経験が大切である。状況に応じて、子どもの気持ちが落ち着くのを待ったり、どうすればよかったかを一緒に考えたりするなど、気持ちの揺れに寄り添った援助が求められる。また、子どもが自分なりの考えを導いた結果、どのような行動をするかを最後まで見届け、子ども自らがよいと決断して行動したときに、十分に認めることが、その定着につながる。

その際には、日頃からの教師と子どもとの信頼関係が問われる。「この先生であれば話を聞いてくれる。」「気持ちをわかってくれる。」という安心感がないと、子どもは本音を語らない。普段から子どもとどのような関係を築いているかが、問題になるだろう。

さらに子どもの思いをたずねる際は、友達からどう見られるかという評価に敏感な子どもがいることにも配慮したい。周囲の評価に敏感な子どもの中には、悪いとわかっているにもかかわらず、自分を正当化し、余計に頑なな態度をとってしまう子どももいる。その子どもの評価を下げないためにも、可能であれば、教師と二人だけになれる場所へ移動して、ゆっくり話せる雰囲気を作ることも大切である。問題が起こった場所から離れることで、クールダウンし、気持ちを切り替える効果も期待することができる。周囲の目を気にせずに、安心して自分の思いを出せる人や場所を確保することが、自身の行動を振り返るきっかけになる。

また、大人から威圧的に指導される環境で育った子どもの中には、自分の気持ちを素直に話せるようになるまでに、時間を要する場合がある。そのようなときは、子どもの話に耳を傾け、思いを受容し、焦らずにじっくりと気持ちをほぐしていくようなかわり方が求められる。威圧的に叱られる経験が積み重なると、「その大人が怖いから～しよう。」と判断することになり、そこでは本当に善悪を判断する力が育っているかどうか疑われる。そのため年中の後期頃になると、大人が目が届かない場所で、悪いと思う行為をする可能性も懸念される。そのため幼児期に、大人のあたたかい寄り添いのもと、自分で善悪を判断することができる心を育てておかなければならない。園生活を通して、教師と子どもとの信頼関係を築き、状況に応じて、子ども自身が気づき、考えるような経験を積み重ねることが、善悪を判断して行動する力を育成すると考える。

②場面2 - 楽しく遊ぶために、みんなでルールを考える -

クラス内で起きた事例をもとに、全体の課題として、どうすればよいかを考える機会を設けた。T男だけの問題として考えてほしくなかったため、ぬいぐるみを使って、普段の子ども達の戦いごっこの様子を再現しながら、T男と教師で導き出した戦いごっこのルールを伝えた。

- 「戦いごっこをしよう。」と声をかけて、相手が「いいよ。」と言ってから始める。
- 相手としっかり目を合わせて、剣と剣が当たるように動かす。
- 剣を振り回すと、友達の顔や目に当たってしまうことがある。周りに人がいないかをよく見る。
- 戦いごっこは広い場所でする。

教師が、以上四つのルールを確認したところ、子ども達から次の提案があった。

- 相手に当たらないように、うそこのキックやパンチをする（J男）。
- 堅い剣で友達を叩くと怪我をする可能性があるので、戦いごっこは、やわらかい剣でする（Y男）。

J男の提案については、気持ちの調整が必要であり、年中の後期に入る時期に合った課題であった。友達と楽しく遊ぶためにどうすればよいかを考えた結果、導かれた提案であり、これを意識することで、実際の遊び方に大きな変化が見られた。

Y男の提案については、従来は教師が作った剣で遊んでいたが、その剣では堅すぎて危険であるという結果に至り、それからは自分達で作った剣で遊ぶという新ルールが誕生した。後日、教師が以前に作った剣を見つけると、「こんな堅い剣では、お友達が怪我をさせていただきますからね。預かって下さい。」と言って、自発的に判断して、職員室にいる副園長に預けに行くY男の姿が見られた。

友達間で生じた衝突を特定の子どもの問題としてとらえるのではなく、それぞれが自分達の問題としてとらえ、どうすればよいかを考えた結果、子ども達なりに考えたルールをクラス全体で共有することができた。保育では、問題を起こした個人を責めるのではなく、自分達の問題として考える経験を積み重ねながら、善悪の判断や道徳性を育てるように導くことが大切である。

また、教師自身の気づきや問題意識が子どもに影響するので、教師がどんな場面に心を碎き、子どもの心に訴えていくかが問われる。そのため、教師自身がアンテナを張り、子どもの育ちや発達段階を見通し、子どもがものや人とのかかわりを深める中で起きる様々な機会をとらえて、指導の充実を図る必要があると考える。

Ⅲ 附属小学校の取り組み

ここでは、道徳の内容の一つである「主として自分自身に関すること」に関する小学校学習指導要領と同解説道徳編の記載を確認した上で（ただし後者は、一つの内容項目に限る）、それに関する附属小学校第2学年の2012年度版年間指導計画を提示し、さらに同年6月5日に、資料「ほくも入れて」を使って、平野崇教諭が実践した道徳授業について報告する（資料全文と「第2学年 道徳学習指導案」を転載する）。なおこの授業は、当初予定されていた資料「先生、おしえて」の実践の代わりに行われたものである。

1 小学校学習指導要領の記載

小学校学習指導要領は、道徳の内容の柱として、次の四つを設定している⁽⁸⁾。

- 1 主として自分自身に関すること。
- 2 主として他の人とのかかわりに関すること。
- 3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること。
- 4 主として集団や社会とのかかわりに関すること。

そして小学校学習指導要領は、1「主として自分自身に関すること」に含まれる第1・2学年の内容項目として、次の四つを挙げている⁽⁹⁾。

- (1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしない

で、規則正しい生活をする。

- (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
- (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
- (4) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。

このうち「善悪の判断」と「勇気」にかかわる内容項目は、(3)である。小学校学習指導要領解説道徳編は、次のように述べている⁽¹⁰⁾。

よいことあるいは正しいことについての確に判断し、勇気をもって主体的に取り組める児童を育てようとする内容項目である。(中略)

人としてやってよいこと、社会通念としてしてはならないことをしっかりと区別したり、判断したりする力は、児童が幼い時期から徹底して身に付けていくべきものである。それとともに、より積極的に健康的な自己像を描くことができるようにすることが大切である。そのためには、何事にも積極的に取り組む姿勢が必要となるが、その原動力が勇気であると考えられる。それは、蛮勇ではなく、よいと思ったり、正しいと判断したりできる力を伴った勇気でなくてはならない。特に価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いことの区別ができるように指導しておくことは重要である。

この段階においては、まだ集団生活に慣れていないために、引っ込み思案になったりものおじしたりすることも少なくない。行ってよいこと、人間としてしてはならないことが区別できる力を養うとともに、よいと思っことは、遠慮しないで進んで行うことができるように励まし、援助し、一貫した方針をもって指導していくことが大切である。

2 附属小学校の年間指導計画

附属小学校では、学年別に、上述した道徳の内容の柱ごとに年間指導計画を立てている。第2学年の「主として自分自身に関すること」であれば、次の通りである。一つの主題・資料につき1時間、内容項目の1-(1)、(2)、(4)には各3時間、1-(3)には1時間が割り当てられており、合計10時間の配当である。

実施月・週	4月第2週
内容項目	1-(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
ねらい	物やお金を大切にし、わがままをしない生活をしようとする道徳的心情を育てる。
主題・資料名	じぶんをしっかりと 「おかあさんがくれたクレヨン」(学研『みんなのどうとく 2ねん』所収。以下、学研とだけ表記する)
主題設定の理由	物や金銭は、生活上必要不可欠なものである。生活が豊かになり、欲しい物がすぐ手に入る今の時代こそ、物を有効に、しかも大切に活用する生活習慣や心を育てることが大切である。そのことは、そこにかかわる人々の心を大切にし、他とのかかわりをしっかり考えることにもつながる。

実施月・週	5月第4週
内容項目	1 - (2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。
ねらい	つらくても自分がしなければならないことは、最後までやり遂げようとする道徳的態度を養う
主題・資料名	つらくてもがんばる 「がんばれ ポポ」 (学研)
主題設定の理由	生活が便利で豊かになるにつれて、子ども達は、苦労や我慢をせずに済む状況となり、粘り強く一つのことをやり遂げることが苦手となってきた。多少の苦しさや困難を乗り越え、自分の課題や目標に向かって努力する力が、「生きる力」となる。本資料を通して、結果より、そこに至るまでの努力を大切に、目標達成の成就感、充実感を感じ得ることで、自分の力を出し切って頑張ろうとする態度を育てたい。

実施月・週	6月第1週
内容項目	1 - (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。
ねらい	よいことと悪いことの判断に迷ったとき、周りの人に相談し、解決しようとする道徳的態度を養う。
主題・資料名	よいことはおもいきって 「先生、おしえて」 (学研)
主題設定の理由	よりよく生きるためには、よいと思ったことは進んで取り組むことが、大切である。その原動力になるのが、よりよく正しい判断のできる勇気である。その判断に迷ったとき、周りの人と相談することによって、よりよい判断をし、自信をもって行動できることに気づくようにしたい。

実施月・週	7月第3週
内容項目	1 - (1)
ねらい	むだ遣いをせずに、物を大切にしようという道徳的心情を育てる。
主題・資料名	だいじにつかおう 「ノートのひこうき」 (学研)
主題設定の理由	欲しい物が比較的簡単に手に入る社会の中で、物や金銭を大切にしようとする意識は、薄れがちである。しかし、ゴミの分別作業や廃品回収等、リサイクル運動が行われ、限りある資源を大切にしようという気運が高まる中で、物を大切にしようとする心情を育てることは、一層重要なこととなってきている。

実施月・週	10月第1週
内容項目	1-(4) うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活する。
ねらい	うそをついたり、ごまかしたりしないで、素直に生活しようとする道徳的態度を育てる。
主題・資料名	うそをいわないで 「おくらがはまおかねがはま」 (学研)
主題設定の理由	よりよい人間関係を築いていくためには、自分自身に対する誠実さや明るく楽しい生活を心掛けることが重要である。本資料を通して、登場人物の心情と子どもの生活経験とを照らし合わせた上で、うそやごまかしをしないで生活することの大切さを考えることができるようにしたい。

実施月・週	10月第2週
内容項目	1-(4)
ねらい	よいと思ったことは、進んで行おうとする道徳的心情を育てる。
主題・資料名	ゆうきをだして 「モチモチの木」 (学研)
主題設定の理由	人間が社会生活を営み、生きていく過程では、様々な課題や困難な場面に直面する。周りの条件、誘惑に負けず、勇気をもって正しい生き方をしようとする心情を育てることは意義がある。

実施月・週	11月第3週
内容項目	1-(2)
ねらい	勉強や仕事をしっかりと行うことのできる自分を好きになる心情を育てる。
主題・資料名	ほくの字のかんせい 「かきかたのじかんのこと」 (学研)
主題設定の理由	気が向かないことに一生懸命取り組むことは、なかなか難しいが、そのようなときにこそ一生懸命取り組む大切さや、自分が努力した後には必ず喜びがあることに気づかせたい。

実施月・週	12月第3週
内容項目	1-(1)
ねらい	健康や安全に気をつけて、節度ある生活をしようとする道徳的態度を育てる。
主題・資料名	わがままはしっぱいのもと 「めいわくダンプ」(学研)
主題設定の理由	自分を守る者は、最終的には自分しかいない。よりよく生きるためには、自分の生活全般を律し、周りとの調和の中で生活することが大切である。自己中心的な行動が周りに迷惑をかけていることに気づかせることで、自分本位の気持ちを抑えようとする態度を育てたい。

実施月・週	2月第2週
内容項目	1-(4)
ねらい	どんなときでも、うそをついたり、ごまかしたりしない道徳的心情を育てる。
主題・資料名	しょうじきなこころ 「みかんの木の てら」(学研)
主題設定の理由	子どもは、叱られたり笑われたりすることを避けるために、ついうそをついたり、今よりもよりよく見せようと過大なことを言ったりしてしまう。それにより暗い心になり、明るい学校生活が送れなくなることがある。自分自身にはうそをつけないことに気づき、誠実に生きていこうとする心情を育てたい。

実施月・週	2月第3週
内容項目	1-(2)
ねらい	自分がしなければならぬ仕事は、最後まで行おうとする道徳的態度を育てる。
主題・資料名	がんばるこころ 「なおみさんはかだんがかり」(文溪堂『2年生のどくとく』所収)
主題設定の理由	自分が立てた目標に向かって努力することは、自己実現を図る上で大切なことである。しかし、暮らしが便利になった現代では、苦勞を伴う仕事は、できるだけ避けようとする風潮がある。そこで、自己実現を図るためには、障害を自分の力で乗り越えようとする態度を育てることは、大切なことである。

3 「ほくも入れて」の実践

(1) 資料

ほくも入れて

としおくんは、学校から帰ると、近くの公園に あそびに行きました。
公園では、同じ組の友だちが、おにごっこをしていました。とても おもしろそうです。
としおくんは、しばらく、みんながあそんでいるのを見ていました。でも、だれも、「入っていいよ。」と 言ってくれません。
としおくんは、つまらなくなって、うちへ帰りました。
おかあさんが、
「もう帰ってきたの。もっと あそんでくればいいのに。」
と言いました。
「でも、だれも あそんでくれないんだ。」
「自分から、『あそんで。』って 言ったの。」
おかあさんは、心配そうにききました。
「ううん、ほく……。」
としおくんは、じっと 下をむいています。
「としおが『入れて。』と言えば、入れてくれますよ。ゆうきを出して 言ってごらん。」
「うん……。」
おかあさんにはげまされて、としおくんは、また公園に行きました。今度は、みんなは、大なわで あそんでいました。
としおくんは、思い切って、
「ほくも入れて。」
と、大きな声で言いました。
みんなは、少しびっくりしたようですが、たつやくんが、
「いいよ。入りなよ。」
と言ってくれました。
それから、としおくんは、みんなと楽しくあそびました。

(井美博子作)

(2) 学習指導案

①ねらい

1 - (3) よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行う。

○ よいことや正しいことは、勇気をもって行おうとする心情を養う。

②主題・資料名

一歩踏み出す勇気 「ほくも入れて」(光村図書『どうとく きみがいちばんひかるとき 2ねん』所収)

③資料について

としおくんは、同じ組の友達と一緒に遊びたかったが、自分から遊びに入れてほしいことが言えず、そのまま家に帰ってしまう。その後、お母さんに励まされて「ぼくも入れて。」と声をかけたら、楽しく遊ぶことができたという内容である。よいと思ったことは、勇気をもって行っていこうとする心情に焦点を当てて、ねらいとする価値に迫りたい。

④主題について

本主題は、集団生活の中で、引込み思案になったり、物怖じしたりせず、よいと思ったことは勇気をもって行おうとする心情を養うことを指導のねらいとしている。

勇気とは、よいことや正しいことを進んで行う原動力になるものである。例えば、友達がかかわれているときに、怖さや不安に負けず、助けようとするなどの思いである。つまり、よいことや正しいことを進んで行える、よりよい自分になるためには、勇気をもって実践しようとする心情を養っていくことが大切である。

このような内容を学習することは、勇気をもつ大切さに気づき、それをもとに自分をふりかえることで、よりよい自分になっていこうとする心情を養うことになる。また、よいことや正しいことに対して、勇気をもって取り組んでいくためにも意義深いものである。

⑤子どもについて

子どもは、日常生活の中で、よいことや正しいことに対して勇気をもって取り組むことが大切であるということは知っている。授業中には、不安に思いながらも挙手をし、発表しようとしている姿が見られる。しかし、いざとなると怖さや不安に負け、よいことや正しいことと判断しながらも、勇気をもって取り組めないことがある。

道徳の時間では、資料について、内容の順序に沿いながら、場面ごとに思いをもち、図や言葉に表現しながら、ねらいとする道徳的価値に迫っていくことができる。また、友達と自分の思いを比較したり、関連づけしたりしながら深めることができるようになってきている。しかし、ねらいとする道徳的価値について、自らをふりかえり、自分の生活につなげる道徳的価値観としてとらえるためには、今後の指導が必要である。

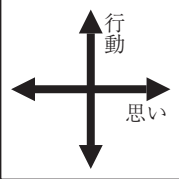
⑥指導の段階と手立て

段階	手立て
生み出す	○ 資料の中の遊びに入れてもらえない場面の挿絵を提示し、よいと思っていても進んで行えない場合もあることに気づかせ、「どうしてできないのだろう。」と問うことで、勇気を出せない問題を意識させる。
挑む	○ 「なぜ『ぼくも入れて。』と言えないのか。」という、道徳的価値そのものにつながる発問をし、思いを表現させ、その理由等につなげられるようにすることで、道徳的価値に対する思いを深めることができるようにする。
生かす	○ 登場人物と自分自身の思いを近づけられるように板書を構造化することで、「自分だったら～する。」という思いを持つことができるようにする。さらに、登場人物に対するメッセージを書くことで、道徳的価値を深め、道徳的価値観をとらえられるようにする。

⑦指導計画

段階	主な学習活動及び学習内容	考えを持たせ、考えを高める教師のかかわり
事前指導		○ 帰りの会の「ふりかえり」のコーナーで、よいと思うことを進んでできた子どもを取り上げて賞賛することで、道徳的価値に触れさせるようにする。
生み出す (10分)	1 本時の道徳的価値に対する問題を意識する。 ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゆうきについて考えよう。</div>	○ 勇気を出せない問題を意識させることで、道徳的価値をとらえられるようにする。
挑む (28分)	2 道徳的価値に対する思いを確かめる。 3 資料を通して道徳的価値について思いを深める。 4 資料を通して自分を見つめ、道徳的価値観を育む。	○ 道徳的価値に対する思いを図上に表現させることで、道徳的価値を明確にできるようにする。 ○ はじめに中心発問をし、主人公の葛藤に共感させ、その上で道徳的価値そのものにつながる発問をすることで、思いを深め、子どもの多様な道徳的価値観に触れさせ、考えを広げたり、深めたりする。 ○ 自分と資料をつなげて考えさせるために、考えやすい発問をし、理由を問うことで、道徳的価値を道徳的価値観としてとらえていけるようにする。また、他者の意見に触れさせることで、道徳的価値観が深まるようにする。
生かす (7分)	5 道徳的実践力を育む。	○ 登場人物へメッセージを書く活動に取り組みさせることで、道徳的価値観を違った視点から考え、自分が判断に困ったときに、生きてはたらく力となるようにする。
事後指導		○ 進んで発表したり、よいことに進んで取り組んだりしたときのことについて、学級通信で知らせることで、さらに勇気をもって行おうとする思いを身につけられるようにする。 ○ よいことや正しいことを勇気をもって行おうとする姿を写真に撮り、紹介することで、実践しようとする意欲をもつことができるようにする。

⑧指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり	用具準備物
<p>1 ねらいとする道徳的価値について話し合い、問題を意識する。</p> <p>○ 本時のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">ゆうきについて考えよう。</div>	<p>○ 資料の挿絵を提示し、話し合うことで、勇気を出せないという問題を意識することができるようにする。</p>	資料の挿絵
<p>2 ねらいとする道徳的価値に対する思いを確かめる。</p>	<p>○ よいと思ったことは、勇気をもって行うことについて、「こころの図」に思いを表現させることで、思いを明確にもてるようにする。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	手持ちのこころの図
<p>3 資料を通して道徳的価値に対する思いを深める。</p> <p>◎ 「ゆうきを出して 言ってごらん。」と言われたときのとしおの思いについて</p> <p>○ みんなが遊ぶ様子を見ていたときのとしおの思いについて</p> <p>○ 「ほくも入れて。」と言ったときやその後一緒に遊んでいるときのとしおの思いについて</p>	<p>○ はじめに中心発問をし、その前後の部分にも思いを広げられるよう切り返していくことで、道徳的価値に対する思いを深められるようにする。</p> <p>○ 「なぜ『ほくも入れて。』と言えないのかな。」と問うことで、公園で自分から進んで声をかけられないとしおの思いに、深く共感していくことができるようにする。</p>	学習プリント
<p>4 資料を通して自分を見つめ、道徳的価値観を育む。</p> <p>○ 勇気について</p>	<p>○ 資料と自分をつなげられるよう「勇気を出すのは簡単か、難しいか。」と問い、その答えの理由とそれぞれの場面でのとしおの思いをつなげることで、自分を見つめられるようにする。</p>	
<p>5 道徳的実践力を育む。</p> <p>○ としおへのメッセージ</p>	<p>○ としおにメッセージを書かせることで、よいと思ったことは勇気をもって行おうとする心情を育む。</p>	メッセージカード

⑨評価基準

○ よいと思ったことは、勇気をもって行おうとする思いをもつことができている。
(発表、学習プリント)

「としお君が勇気を出したのは、とってもよかった。同じようなことがあっても、よいことは、勇気をもってやっていこう。」

IV 今後の課題

本研究では、幼稚園と小学校における「善悪の判断」と「勇気」を主題とした道徳教育実践の事例として、附属幼稚園と附属小学校での取り組みについて報告した。では、それらは、どのようにすれば、どの程度までつなげることができるか。同じ主題で行われた他の実践についてはどうか。

また、上述した小学校第1・2学年の道徳の内容項目1-(3)は、「主に」第3・4学年の1-(3)と第5・6学年の1-(2)、(3)⁽¹¹⁾と「深くかかわっている」⁽¹²⁾。

第3・4学年

(3) 正しいと判断したことは、勇気をもって行う。

第5・6学年

(2) より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

(3) 自由を大切にし、自律的で責任のある行動をする。

これら三つの内容項目にかかわって、どのような実践が行われているか。小学校の道徳カリキュラムにおいては、6年間の系統性が確保されているか。

これらの問いに対しては、現時点では十分に回答することができない。今後の課題としたい。

執筆分担：IとIVは、助川が単独で執筆した。IIとIIIは、それぞれ藤森と平野が資料と草稿を準備し、助川が改めて、完成稿とした。

注

- (1) 文部科学省教育課程課・幼児教育課編集 『初等教育資料』平成20年3月号(通巻832号) 東洋館出版社 2008(平成20)年3月 p.118.
- (2) 『幼稚園教育要領』文部科学省 2008(平成20)年3月 pp.20-21.
- (3) (1)と同じ
- (4) (2)と同じ p.22.
- (5) (1)と同じ pp.156-157.
- (6) (2)と同じ pp.14-15.
- (7) 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 2008(平成20)年10月 pp.102-103.
- (8) 『小学校学習指導要領』文部科学省 2008(平成20)年3月 pp.102-104.
- (9) 同上 p.102.
- (10) 『小学校学習指導要領解説 道徳編』文部科学省 2008(平成20)年8月 pp.40-41.
- (11) (8)と同じ pp.103-104.
- (12) (10)と同じ